

質問 牧田議員（自民・美濃加茂市）令和7年10月2日（木）

1 治療中心から予防・健康管理重視の医療への転換に向けた県の取組について

答弁 知事

現在、日本の医療費でございますが、高齢化の進展に加えまして、医療技術の高度化や新薬の開発・導入などによって、拡大の一途をたどっております。

このままでは、国民の誰もが少ない自己負担で、最高レベルの治療を受けられる「国民皆保険制度」の維持に支障をきたすことが懸念されております。

限られた医療資源及び財源の中で、「国民皆保険制度」を維持していくためには、国民自らが予防や健康管理に努め、心身ともに健康な期間、いわゆる「健康寿命」、正にご指摘いただいたところですが、これを少しでも長く保つことが重要でございます。

現在、私たちの健康を脅かす「生活習慣病」や「フレイル」は、食生活の乱れや運動不足、更には過度のストレスなどが原因であり、本来医療に頼らずとも自らの行動変容、これは生活習慣を見直すことですが、これを行うことによって「予防」することが可能なものです。

しかしながら、現実には、実際に健康を害するまで生活習慣を改めることはできないというのが実態でございます。これが医療経済学の分野で言われるように、予防政策によって医療費は減らないと言われるゆえんでございますが、これにチャレンジしなければいけないと思っています。従いまして、健康管理や生活習慣の改善を呼びかけるだけではなく、日常生活において、本人が意識しなくても、健康の維持管理ができてしまうような環境を整備することが必要だというふうに考えております。

議員ご指摘のとおり、そのための取組が「ぎふモーニングプロジェクト」でございます。このプロジェクトは、特に高齢者の方々が毎朝喫茶店に通うという日常生活の中で、「美味しく食べて、適度に運動して、仲間と楽しく笑って話す」、これを行うことで、実は免疫力を高める鍵と言われております「美味しい、楽しい、ワクワク」、この3要素を実現し、頑張らなくても健康になれる環境、これを提供する試みでございます。

本年度は、ねんりんピックの実施に合わせまして、喫茶店のモーニング文化をまずは活性化させるとともに、県内全域に取組を広げるために、ご指摘のありましたスタンプラリーやモーニングコンテストを行いまして、おかげさまで現在大いに盛り上がっております。実は喫茶店だけではなくて、食堂やレストランからもこのプロジェクトに参加させてほしいという声が多数寄せられているところでございます。

本プロジェクトは、年明けから自身の健康データ、すなわち、いわゆる「パーソナ

ル・ヘルス・レコード」と言いますけども、健康データを活用いたしまして、健康意識を高めていくことを目的とした取組の実施を予定しているところでございます。

具体的には、県内約 40 の喫茶店を予定しておりますが、そこに通っておられる成人、高齢者を中心に 800 名のプロジェクト参加者を募りまして、モーニングサービスを楽しみながら健康管理アプリを用いて、食事の摂取カロリー、体重、歩数等を記録して、健康を自ら管理しやすい環境を整備してまいります。

実施に際しましては、これも入力が大変という話がありますので、実はアプリをダウンロードすることによりまして、スマートフォンと連動してアプリが歩数を自動計測します。さらに、スマートフォンで撮影した食事の写真から AI が自動的に摂取カロリーや栄養素を分析するという仕組みを取り入れておりまして、本人がデータ入力する負担を極力軽減しようというふうに考えております。

さらに、健康データを入力していただいた方には、ポイントを付与しまして、ポイントに応じてコーヒーを無料で提供するといったインセンティブを設けまして、継続を促す仕組みも検討しているところでございます。

県といたしましては、「美味しい、楽しい、ワクワク」を日常的に実現することを通じて、予防や健康管理に取り組みやすい環境を整備し、「健康寿命」の延伸を実現してまいります。

担 当 課 健康福祉政策課

電話番号 058-272-8260

メー ル c11221@pref.gifu.lg.jp